

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173800582), 法人名 (有限会社 ライフケア), 事業所名 (グループホームひまわり ユニット I), 所在地 (日高郡新ひだか町静内旭町1丁目30番29号), 自己評価作成日 (平成28年11月30日), 評価結果市町村受理日 (平成29年3月1日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所された方々の想いや気持ちに寄り添い、新たな家、もう一つの家族であると感じながら穏やかに生活できる支援に努めている。また、支援を受けながらも自分らしさを保ち、できる限り心身の状態を健やかに維持し続けられるようチームとしての一貫した支援にも力を入れている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=tr ue&JigvosyoCd=0173800582-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0173800582-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年1月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新ひだか町静内地区の住宅地に位置した、木造モルタル造り平屋建て2ユニットの事業所である。総合病院・内科医院・調剤薬局・公園・コンビニ・旭町生活館・バス停に近く利便性が良い。事業所内は随所に工夫が見られ、広いリビングや廊下は歩行運動に効果を上げ、トイレの場所は照明効果で解かりやすく示し、バルコニーは外気浴やティータイムに役立ち、畳敷きの小上がりやサンルームは憩いの場となっている。裏口からは、利用者が丹精込めて育てている野菜畑へ直接出られる。運営者の豊かな経験と知識が、全職員の介護姿勢につながり、利用者個々にきめ細かなケアサービスを提供し、馴染みの関係の中で共に過ごす日々を大切にしており、家族の信頼も厚い。協力病院が隣地にあり、医師・看護師とはすぐに連絡が付くことから安心度も高く、利用者や家族の希望に合わせ看取り介護にも対応している。当事業所の運営推進会議・防災訓練・観楓会等は、町内婦人部の年間予定に組み込まれており、利用者は町内会主催の季節の行事に参加し、地域住民は事業所の焼き肉パーティ・観楓会・忘年会に参加する等、近隣住民とは良好な関係を築いている温かい事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念や目標を共有し、意識づけていけるように、毎朝復唱して見つめ直し、実践に向けて取り組んでいる。	法人の理念・事業所の介護理念・スタッフの心構えはパンフレットに明記し、申し送り時に唱和している。職員は、理念に基づき『今日の目標』を設定し、常に理念を踏まえた介護の実践を心掛けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会の歌の会や長寿を祝う会等に参加したり、当所の観楓会や焼肉パーティー、忘年会等に地域住民を招いたりし、地域社会と入所者が交流できるよう積極的に取り組んでいる。	町内会に加入している。町内会の婦人部は、事業所の運営推進会議や避難訓練等の行事を年間計画に組み込み、お互いに地域の一員として交流をしている。ボランティア訪問も多く利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事等で日常生活状況を報告し、地域住民との交流に繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議等で、認知症の方への接し方や暮らしぶり等、地域に知られていない日常生活の状況等を具体的に伝えている。また、管理栄養士によるバランスの良い食事方法、歯科衛生士による口腔ケアの方法、防災・行方不明者捜索訓練、独居老人成年後見制度について等、外部の方やボランティアの方と協力関係を築くことでサービスの向上に努めている。	利用者・家族・行政職員・町内会役員・地域住民・法人代表・事業所職員等、幅広いメンバーが出席し、行事報告・地域との交流・防災計画等を話し合い、事業所の運営に効果を上げている。会議の中で、介護や医療の勉強会も開催しており、議事録は利用者家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町や関係機関と情報を共有し、日常的に話し合い、研修会等にも積極的に参加している。実情や取組について伝えながら協力関係を築いている。	行政とは、ケアサービスの疑問点や不明な点を出向いたり電話で相談をしている。地域包括支援センターと協力して、認知症サポーター養成講座を開催し、啓蒙活動に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人のペースに合わせて自由に生活できるような職員同士の話し合いを持ち、見守りに努めている。玄関や出入口は夜間以外施錠していない。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかり、利用者の安心と安全の遵守に努めている。日中は玄関は施錠せず、鍵をかけない暮らしを実践している。利用者の外出傾向は抑制せず、気配り・目配りで『見守り支援』に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、虐待について学んでいる。学んだことは報告書にまとめて他の職員と共有し、注意喚起や防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は、運営推進会議で成年後見制度について学ぶ機会があり対応できている。今後は学ぶ機会を増やし、活用できるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、そして、御家族の環境や状況を理解し、契約内容をわかりやすく説明することで不安を軽減できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族等の意見や要望を運営に反映できるよう意見箱を設置している。また、来訪された時等にも意見や要望を伺い、運営に反映できるよう努めている。ホームのお便りや個人毎のお手紙でも日常の様子をお伝えする等、平素から対話を重視し、関係づくりに努めている。	意見箱を設置しており、家族の来訪時には積極的に話し合いの場を持っている。無記名のアンケートを実施し、家族の意見を介護や運営に反映している。事業所からの発信として写真やコメントをで解かりやすく工夫した事業所便りと、利用者別に、担当職員手書きの日常の様子や受診状況を送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員自身の責任やできることを引き出せていない面もあり、管理者として働く意欲を向上できるよう環境づくりや質の確保に努める。	職員会議や、日常の業務を通じ職員の意見や提案を聞いている。管理者との個人面談もあり、職員のメンタルケアやストレスケアの場面などからの要望も話し合い、職場環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう日頃の努力や具体的な実績、勤務状況等を把握し、働きやすい環境となるよう勤務時間の変更や個人面談といった配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学びの機会を増やし、経験や段階に応じた研修へ積極的に参加することで知識や技術を身につけられるようにしている。管理者としては、研修の意義を伝えきれていない面があり、目的の明確化を図りきれなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所と地域包括支援センターが中心となって情報交換親睦交流会を開催し、他事業所との連携を深めることで質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人または御家族に来所して頂いてお話を伺い、入所後も安心して過ごせるよう状況把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に御家族にお話を伺い、話し合いを持つことで安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、ホームでの生活に早く慣れて不安なく穏やかに過ごして頂けるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを把握し、時間がかかってもやり遂げられるよう見守りながら支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所前にどのような生活をされていたか伺い、本人を支えることができるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族と一緒に外出したり、職員と一緒に買い物に行ったりできるようにしている。知人の面会等、会える場を提供できるようにも努めている。	近隣地域からの入居利用者が多く、家族とレストラン・友人宅・墓参りに行き、町内会行事への参加も多く、以前からの関係を維持できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	聞きとりの難しい入所者には職員が間に入って一緒に楽しめる場を作るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所者が亡くなった後も当所の行事等の際には参加して頂けるか連絡を差し上げて確認している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握できるよう努めている。本人からの聞き取りが難しい場合には、本人の視点に立って取り組んでいる。	センター方式のアセスメントを活用し、個々の思いや意向は、日常の様子や会話で把握できるよう努めている。個人別の生活日誌に気付いたことや出来る事を記録し、家族や関係者と相談の上、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や生活環境を資料としてまとめてあり、これまでの暮らし方を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの入所者の一日の過ごし方を日誌に記録し、把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族等の関係者と話し合っ介護計画を作成している。月に一度、職員会議を開き、現状の確認や目標の評価を全員で行っている。	定期的な見直しは4カ月毎に行っている。毎日の状態を記録し、カンファレンスで話し合い状況に即したケアプランを作成している。身体の変化や本人・家族の要望を取り入れ随時見直しを行っている。医師、看護師と意見交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別の記録に毎日の様子や気づいたこと等を記録して職員全体で情報を共有している。また、直接的な支援以外でも確認が必要ながあれば連絡ノート等を活用して共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状況に合わせて自宅や御家族の家へ行ったり、できるだけ本人が希望する時間に食事や入浴をしたり、本人の気持ちを尊重した支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加したり、当所の行事に地域住民を招待したりすることで関わりを多く持てるように努めている。買い物や外食、コンサート等、町内外の施設を活用した活動も積極的に取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する提携病院を入所後のかかりつけ医とし、隔週で往診が行われている。他院を受診する際は本人及び御家族等の希望を尊重し、かかりつけ医と相談しながら適切な治療が受けられるようにしている。	協力病院は隣接しており、医師や看護師は日常的に事業所を訪問し、利用者の様子を診ている。医師・看護師とは24時間連絡がつく。また、総合病院は向かいにあり、個々の病状に合わせ受診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康状態を観察し、日々の状況や変化を的確に伝えて看護師との連携を密にし、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関へ本人に関する情報提供を行っている。お見舞いにより元気づけたり、短期間の治療で退院できるように御家族と相談したり、本人のストレスや負担を軽減できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化等を早い段階から御家族へ伝え、対応を確認している。医療機関ともケア方針を共有し、終末期を支えるチームとして連携を図りながら支援している。	重度化や終末期の指針があり、本人や家族等と早い時期から話し合い説明をしている。終末期の看取り介護も行い、チームとして支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しているが事故の度合いの判断等は難しく、全ての職員が実際の場面で対応できるよう技術の習得に努めていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員に協力して頂き昼と夜の想定で年に2回避難訓練を行い、地域住民にも参加して頂いている。水害時は近くの病院の高所へ避難できるよう話し合いがされている。また、食料や暖房機器、トイレ等の備蓄品も準備されている。日頃から話し合いを持ち、いざという時に落ち着いて避難誘導ができるよう努めている。	町内会役員や近隣住民参加で、避難訓練を行っており、訓練の様子は写真に撮り事業所便りで公表している。自家発電機も準備し、万が一の災害時にも事業所内で暮らせるように配慮しており、実際に避難所まで行き、豚汁とおにぎりを炊き出しとして提供した訓練も実施した。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人間性を大切に、尊敬の思いを持って接することで礼を欠く言動や恥ずかしさを感じないよう努めている。また、過剰な言葉掛けにならないよう心がけている。	一人ひとりの人格を尊重し、個々の状態にあわせた声掛けや対応に気を付けている。個人情報についても、保護法に基づき取り扱いには十分に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉や動作で誘導し、入所者が希望の実現や自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活歴を知り、好みの希望も伺いながら会話や作業を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を着たり、髪を整えたりする等の支援を行っている。また、定期的に美容師による整髪を行い、行事等では化粧の支援もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲がわくようにメニューや食材の説明をしながら食事の支援をしている。また、本人の状況に合わせて小分けにしたり刻んだりして食べやすくしている。食器を拭く等のお手伝いもしている。	調理専門職員が作る食事は、身体状況や栄養バランスに配慮し、食欲が出る様に見た目にも美しく盛り付けている。誕生日には、本人が何を食べたいのかを確認し、手作りケーキを用意しお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合わせて刻み食やミキサー食、おかゆといった食事の形態を変えている。また、食事や水分の量を記録し、全職員で把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、本人ができない場合には職員が支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に日中は布の下着を使用し、記録を参考にしながらトイレの促しや誘導をしている。昼夜共に可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	一人ひとりの心身の状況や、個々のサインを見逃さないように、尊厳に配慮したトイレ誘導をしている。各ユニットにはトイレが3ヶ所あり、使いやすく整備され、清潔である。夜間はトイレの場所が解るように照明で誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を記録し、一人ひとりに合わせた働きかけや予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意思や体調に合わせて無理なく入浴できるよう支援している。	一人ひとりの体調に合わせた入浴支援をし、これまでの生活習慣に合わせ夜間帯の入浴も個々の希望にそって支援している。希望があれば毎日入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように寝具の清潔維持、夜間の音や温度等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される薬の情報を確認し、体調の変化や病状の経過を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや散歩、外出等、一人ひとりが気分転換をできるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏期は基本的に毎日散歩をしており、それ以外にも買い物や畑作業等の活動を取り入れている。お花見や観楓会(温泉入浴)等の季節に応じた行事を催したり、町内会の行事に参加したり、本人の希望に沿って御家族や地域住民との交流を図っている。	日常的に散歩に出掛けている。自然に屋外へ出掛けられるように、外出計画が年間行事の中に多数盛り込まれている。夜の時間帯にコンサートに出掛ける等、家族でもなかなかできない支援を積極的にして、地域での生活を実感できるように配慮している。裏庭には野菜畑もあり、収穫した新鮮野菜は食卓に上っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の取扱いは職員間で周知し、買い物や外食の際には本人の実態に応じて所持したり使ったりできるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の実態に応じて電話等で連絡して頂いている。また、本人の実態によっては職員が代わりに連絡する等し、希望に応えられるよう努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気候や天候に合わせて光量や温度を調節し、快適に過ごせるよう努めている。また、七夕やクリスマス等の季節に合わせた装飾や行事も行っている。	行事写真・ボトルキャップアート・手芸クラブの手作り品等が飾られており、居心地よいアットホームな共有空間になっており、一人になれるスペースも用意している。リビングと廊下は一体型の造りで、利用者の歩行運動に効果を上げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のテーブルや椅子の配置、基本となる座席等を工夫し、個人でも、気の合う入所者同士でも、望む場所でゆっくりと過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体能力や異食等に配慮しながら、本人が入所するまでに使っていた馴染みのある家具や小物、御家族の写真等を居室に配置し、穏やかに過ごせる環境づくりに努めている。	居室には自宅で使い慣れた私物や調度品などを持ち込み、家族写真や職員作成の誕生日祝いの寄せ書きを飾り、安心して寛いで過ごせるよう配慮・工夫しており、整理整頓され清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	衝突や転倒のないよう家具の配置や滑り止め等に配慮し、安全に、かつできるだけ自分の力で活動できるよう工夫している。		